

平成25年度 歴史移動展

# 標茶に生きる

## ～開拓道具と当時の生活～

標茶に生きる

本町の開拓を目指し、本州から明治中頃より人々が入植し始めました。入植は、大正中頃から戦後にかけて活発に行われました。しかし、本町での開拓は寒冷地の上に、入植地の多くが原生林に覆われていたため、困難を極めました。本町へ入植された方々の使った道具は、そのどれもがその苦勞と共に使い込まれた道具ばかりです。今回の移動展示では、開拓時代の証言と共に開拓の苦難と共に歩んだ道具の数々を展示します。



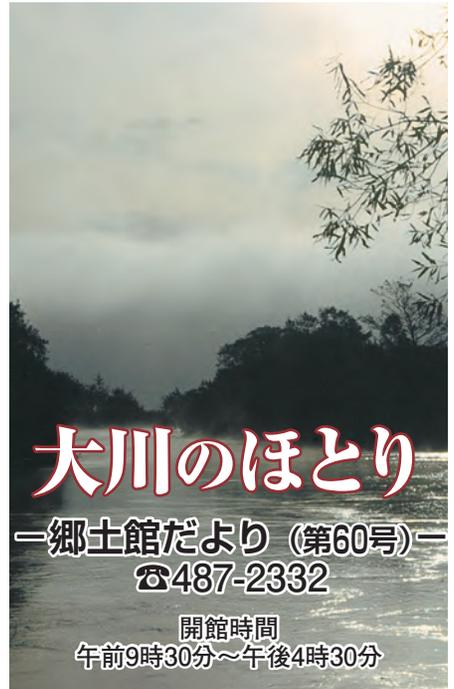
本町での開拓は寒冷地の上に、入植地の多くが原生林に覆われていたため、困難を極めました。本町へ入植された方々の使った道具は、そのどれもがその苦勞と共に使い込まれた道具ばかりです。

今回の移動展示では、開拓時代の証言と共に開拓の苦難と共に歩んだ道具の数々を展示します。

### 1月の展示会場（※以降の展示会場は、翌月の広報にてご紹介します）

・各会場初日の展示は午後からとなっています。見学は無料です。

1月10日(金)～20日(月)	開発センター
21日(火)～27日(月)	塘路公民館
28日(火)～31日(金)	虹別公民館



## 大川のほとり

郷土館だより (第60号)

☎487-2332

開館時間

午前9時30分～午後4時30分

郷土館より  
一筆啓上

今年で郷土館は44年目を迎えます。

44年の歳月の中で主任学芸員は3人目となりましたが、郷土館の持つ寄贈資料と標茶の古い情報は、この先へ受け継ぐべく保管されています。(坪)



### 「お役にたちます！郷土館の資料」

ーウシの光線過敏症を例としてー

郷土館では本町の自然について資料を収集し、ときには現地で調査を行なっています。この集められた資料や調査結果はその後どのように利用されているのか、その例として郷土館が参加したウシの病気の対策を紹介します。

#### ① ウシの病気「光線過敏症」

本町は酪農の町です。そのウシに起こる病気に「光線過敏症」というものがあります。放牧中のウシが直射日光により、白い毛の部分が抜けてしまう病気です。原因の一つとして、有毒物質を含んだエサ(草)をウシが食べて、直射日光に当たること引き起こされると考えられています。

#### ② なぜ郷土館が関わっているのか

昨年、育成牧場から郷土館に、この病気を引き起こす植物が入り込んでいないか調べて欲しいとの協力依頼がありました。育成牧場は「ウシを育てる」専門施設です。またNOSA Iの獣医師は「ウシの病気を治す」専門家です。農業試験場には「ウシの病気の原因を調べる」専門家や「ウシが健康に育つ牧草地を作る」専門家などが揃っています。しかし、どの施設も牧草以外のいわゆる「野草」については専門外で、情報が不足しているのです。

その点、郷土館は本町に生えている植物について、長年蓄積した資料があります。また牧草に紛れて入ってきた外来植物の分布情報や、より詳しい植物の専門家への問い合わせなど、博物館同士の情報ネットワークも持っています。この病気の対策にはこのような郷土館の資料や情報が必要だということで、現地調査から参加しました。



# お知らせ

下記日程で、年末年始休館します。

また、新年1月6日(月)より通常通り、午前9時30分から午後4時30分まで開館となります。なお冬季間はストーブを点火していますが、郷土館は明治時代の建築物の為、館内冷えています。

ご来館の折には寒さ対策をした上でご見学ください。

## 年末年始の休館日

平成25年  
12月30日(月)  
↓  
平成26年  
1月5日(日)

# ご寄贈いただき ありがとうございました

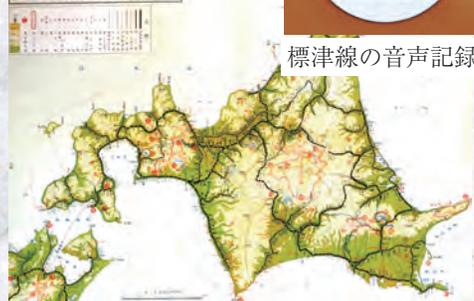
郷土館の新しい体験展示「通票閉塞器」を、前号の『広報しべちゃ』でご紹介した所、複数の方から鉄道関係資料の寄贈をいただきました。

早速ご寄贈頂いた資料の一部を追加し、展示を行っています。寄贈された資料の中には、標津線の列車内で録音されたアナウンスなど貴重な音声もあり、館内で聞く事もできます。

どうぞご来館ください。お待ちしております。

日本国有鉄道案内図  
(北海道)

日本国有鉄道案内図 北海道



標津線の音声記録



切符の日付印字器

### ④ 資料を役立てることが大切

このように郷土館は単に資料を収集、調査をするだけでなく、その結果を社会に役立てていくことも大切な役割なのです。今回の育成牧場の取り組みはまだ始まったばかりですが、郷土館の「この町にはどんな植物が生えているか？」という資料が、酪農産業に生かされ、将来家畜の病気の予防に役立つことを願っています。



放牧地での調査にはボランティアの方々に協力していただきました

### ③ 原因の特定は簡単ではない

今回この病気の原因として、ウシが「有毒物質が含まれている植物を食べること引き起こす」1次的なケースと、「肝臓の機能を低下させる植物を食べること、本来排出されるはずの物質が体内に残り、その物質によって引き起こす」2次的なケースに注目しています。

この1次的、2次的な病気を引き起こす植物について、すでに分かっている植物もありますが、まだ調べられていない植物もたくさんあると思います。また、育成牧場は放牧地だけでも1,279軒と広大で、全域を取り扱うのは並大抵の調査量ではありません。育成牧場やNOSA I獣医師、農業試験場、郷土館が連携し、お互いの情報や資料を照らし合わせて、一つ一つ考えられる原因をつぶしていくためにはなりませんので、大変時間も根気もいる作業です。